



LiveCycle® ES2 の新機能

2010年4月

Adobe® LiveCycle® ES2

バージョン9

© 2010 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved.

Adobe® LiveCycle® ES2 (9.0) LiveCycle ES2 の新機能 (Microsoft® Windows®、Linux®、および UNIX® 版)
第 3.3 版、2010 年 4 月

This document is licensed for use under the terms of the Creative Commons Attribution Non-Commercial 3.0 License. This License allows users to copy, distribute, and transmit the what's new document for noncommercial purposes only so long as (1) proper attribution to Adobe is given as the owner of the what's new document; and (2) any reuse or distribution of the what's new document contains a notice that use of the what's new document is governed by these terms. The best way to provide notice is to include the following link. To view a copy of this license, visit <http://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/3.0/>.

Adobe, the Adobe logo, Adobe AIR, Adobe Reader, Acrobat, Flash, Flex, LiveCycle, and PostScript are either registered trademarks or trademarks of Adobe Systems Incorporated in the United States and/or other countries. EMC and Documentum are registered trademarks of EMC Corporation in the United States and around the world. Copyright 1994-2007 EMC Corporation, all rights reserved. IBM is a trademark of International Business Machines Corporation in the United States, other countries, or both. Linux is a registered trademark of Linus Torvalds in the U.S. and other countries. Microsoft, SharePoint, and Windows are either registered trademarks or trademarks of Microsoft Corporation in the United States and/or other countries. Oracle is a trademark of Oracle Corporation and may be registered in certain jurisdictions. Red Hat is a trademark or registered trademark of Red Hat, Inc. in the United States and other countries. Sun, Java, and Solaris are trademarks or registered trademarks of Sun Microsystems, Inc. in the United States and other countries. UNIX is a trademark in the United States and other countries, licensed exclusively through X/Open Company, Ltd. All other trademarks are the property of their respective owners.

Adobe Systems Incorporated, 345 Park Avenue, San Jose, California 95110, USA.

LiveCycle ES2 の新機能

Adobe® LiveCycle® ES2 (Adobe LiveCycle Enterprise Suite 2) では、エンタープライズで通信および自動化されたプロセスの管理を強化し、より高度なユーザーエクスペリエンスを提供するための新機能と拡張機能が導入されています。

通信管理 LiveCycle ES2 による通信管理ソリューションによって通信プロセスを効率化することで、通信中の情報の機密性と整合性を維持し、顧客サービスのレベルを向上し、非効率性を削減できます。

ビジネスプロセスの自動化 ビジネスプロセスの自動化によって、エンタープライズでは、リアルタイムのダッシュボードおよび警告を使用して、自動化されたプロセスやユーザーとのやり取りが必要なプロセスを管理し、プロセスの可視性や追跡を強化することができます。

直感的なユーザーエクスペリエンス より直感的なユーザーエクスペリエンスにより、顧客向けのセルフサービスアプリケーションや従業員向けの生産性アプリケーションを作成できます。セルフサービスアプリケーションでは、より使いやすく直感的なユーザーエクスペリエンスを提供することにより、ユーザーの満足度および作業効率を向上します。また、個人設定された 1 つのインターフェイスを通じて複数のアプリケーションを統合および操作することで、生産性や意思決定の質も向上します。

新しいモデル主導のアプリケーション開発によって、ビジネスアナリストや開発者は、データオブジェクトおよびそれらの動作をグラフィカルに定義し、その定義を使用して多機能なユーザーインターフェイスを作成できます。その際、コーディングはほとんど、またはまったく必要ありません。これらのオブジェクトを管理するためのサービスは自動的に生成され、そのサービスへのユーザーインターフェイスのバインドは、単純なドラッグアンドドロップインターフェイスを使用して行われます。

LiveCycle ES2 では、ガイドを使用して、プロセスやリッチインターネットアプリケーションの作成に必要なスキルセットを減らすこともできます。ビジネスアナリストは、定義するデータモデルに基づいてガイドを作成できます。

LiveCycle ES2 では、効率化された開発およびチームベースの機能を提供します。開発タスクを完了するための設定の手順数は少なくなりました。共有開発環境では、どの開発者または開発チームがどのアセットにアクセスできるかを制御できます。この制御およびコラボレーションは、チェックインおよびチェックアウトの機能を使用して行われます。

LiveCycle Launchpad ES2 という新しいツールを使用すると、LiveCycle ES2 サービスに簡単にアクセスできます。ユーザーは、デスクトップからツールのユーザーインターフェイスへのドラッグアンドドロップによって、LiveCycle ES2 サービス (PDF の生成や PDF のアセンブリなど) をトリガできます。また、ドキュメントのプロセス (ドキュメントをドラッグしてレビュープロセスを開始するなど) を保護することもできます。Blackberry や iPhone のモバイルサポートを利用すると、ユーザーは Workspace ES2 を通じて直接モバイルデバイス上でビジネスプロセスに参加したり、タスクリストのアイテム (経費報告書など) を承認または拒否したりできます。

LiveCycle ES2 の主な新機能

このバージョンの LiveCycle ES2 では、主に次の領域の機能が強化されました。

LiveCycle Foundation

[Foundation サービス](#)

[LiveCycle 管理コンソール](#)

[JDBCサービス](#)

開発ツール

[LiveCycle Workbench ES2](#)

モジュール

[LiveCycle Process Management ES2](#)

[LiveCycle Mosaic ES2](#)

[LiveCycle Forms ES2](#)

[LiveCycle Business Activity Monitoring ES2](#)

[LiveCycle Output ES2](#)

[LiveCycle Data Services ES2](#)

[LiveCycle PDF Generator ES2](#)

[LiveCycle PDF Generator 3D ES2](#)

[LiveCycle ES2 Connectors for ECM](#)

[LiveCycle Content Services ES2](#)

[LiveCycle Rights Management ES2](#)

[LiveCycle Digital Signatures ES2](#)

共通サービス

[Assembler サービス](#)

インストール

[インストール全般](#)

[自動インストール](#)

LiveCycle ES2 SDK

[API 拡張機能](#)

サンプル

[LiveCycle ES2 デベロッパーセンターからのダウンロード](#)

新機能に関連する製品

[LiveCycle Service Discovery](#)

LiveCycle Foundation

Adobe LiveCycle Foundation は、LiveCycle 管理コンソールでサーバーの正常性監視統計情報を提供できるようになりました。また、すべての非同期操作を休止して、その間にアップグレードやシステムメンテナンスを行うメンテナンスモードも提供します。メンテナンスモードでは、アップグレードやシステムメンテナンスを効率化し、その運用コストを削減します。詳細については、『[メンテナンスモードでの LiveCycle ES2 の実行](#)』を参照してください。LiveCycle Foundation の新機能は次のとおりです。

LiveCycle 管理コンソール

ヘルスマニタ

ヘルスマニタは LiveCycle 管理コンソールの新機能です。ヘルスマニタでは、サーバー情報、メモリ使用量、プロセッサの使用状況など、LiveCycle ES2 システムに関する重要な情報を確認できます。また、キュー内の作業項目やジョブの数、そのステータスなど、ワークマネージャの統計情報も表示できます。ヘルスマニタを使用して、システムが適切に稼働しているかどうかを検証し、問題が発生したときにその問題を診断するのに役立つ情報を確認し、問題を表示している作業項目またはジョブに対して操作を実行することができます。

ドキュメントのデータベースへの保存

LiveCycle 管理コンソールには、長期間有効なドキュメントをグローバルドキュメントストレージ (GDS) ディレクトリではなく、LiveCycle ES2 データベースに保存するオプションがあります。

呼び出し統計の追跡の有効化

LiveCycle 管理コンソールには、呼び出しの数、呼び出しにかかる時間、および呼び出しのエラーの数などの呼び出し統計を追跡するためのオプションがあります。この情報は JMX Bean に保存されるため、JConsole またはその他のサードパーティソフトウェアを使用して統計を確認できます。

アプリケーションおよびアーカイブの管理

LiveCycle 管理コンソールでは、LiveCycle Workbench ES2 で作成した LiveCycle アーカイブ (LCA) ファイルをインポートできます。また、LiveCycle Workbench ES 8.x で作成された LCA をインポートすることもできます。

マニュアル

以前のリリースでは、LiveCycle 管理コンソールのモジュールごとにヘルプシステムがあり、別々の管理ドキュメントがありました。このリリースでは、これらが結合されて、1つの統合された LiveCycle 管理コンソールヘルプシステムになっています。

Foundation サービス

JDBCサービス

- LiveCycle ES2 サーバーで設定されるデータソースがリストに表示されるようになりました。
- 複数の SQL ステートメントのエラーレポート機能の強化。

JMSサービス

JMS サービスで、メッセージをキューに送信するときに利用可能なメッセージタイプのリストが表示されるようになりました。

LDAPサービス

LDAP サービスで、LDAP 検索文字列のネストされたコンテキストがサポートされるようになりました。

Web Service

- SOAP Message Transmission Optimization Mechanism (MTOM) および SOAP with attachments reference (SwaRef) のサポートが追加されました。MTOM および SwaRef 添付ファイルを Web サービスから送受信できます。
- カスタマイズされたデータ型である Table を入力 / 出力パラメータとして使用する SAP Web サービスのサポート。

ユーザー管理コンポーネント

動的グループ

指定された一連のルールを満たすユーザーすべてを自動的に組み込む動的グループを作成できます。動的グループでは、グループに属するユーザーを個々に選択しません。代わりに、一連のルールを指定します。これらのルールに従うすべてのユーザーが動的グループに自動的に追加されます。次のいずれかの方法を使用して、動的グループを作成できます。

- @adobe.com などの電子メールのドメインに基づいた動的グループの自動作成を有効にします。
- ユーザーの電子メールアドレス、共通名、正規名、ドメイン名を含む指定した条件に基づいて、動的グループを作成します。

差分ディレクトリ同期

差分ディレクトリ同期によってディレクトリ同期の効率が向上します。差分ディレクトリ同期を有効にすると、**User Management** では最後の同期以降に追加または更新されたユーザーおよびグループのみが同期されます。

証明書のマッピングの強化

ユーザーに対して証明書ベースの認証を有効にするために必要な手順の 1 つは、証明書のマッピングを作成することです。証明書のマッピングでは、証明書の属性とドメイン内のユーザーの属性の間のマップが定義されます。LiveCycle ES2 では、証明書の属性の内容が **User Management** データベース内のユーザーの属性の内容と異なる場合、Java™ の正規表現 (regex) を使用して、2 つの属性を一致させることができます。

LiveCycle Workbench ES2

Adobe LiveCycle Workbench ES2 では、LiveCycle ES2 アプリケーションの構築がより簡単になります。Workbench ES2 はアプリケーションチェックインとアプリケーションチェックアウトの概念を使用します。権限システムがアプリケーションアセット用に拡張され、開発者の生産性を高めるようにユーザービリティが変更されています。

LiveCycle Designer ES2 と Workbench ES2 との新たな統合により、両方のアプリケーションにまたがるワークフローが可能です。

Workbench ES2 は、フォーム開発者が操作するフォームデザインをチェックイン、チェックアウト、および同期させるアプリケーションのコンセプトを使用しています。Designer ES2 は、Workbench ES2 リポジトリ内ではなく、ローカルのファイルシステム上の同期されたファイルと連動します。

アプリケーション

LiveCycle ES2 では、アプリケーションは LiveCycle ES2 ソリューションの実装に必要なアセットを格納するコンテナです。アセットには、フォームデザイン、フラグメント、画像、プロセス、イベントタイプ、DDX ファイル、ガイド、HTML ページ、SWF ファイルなどがあります。次の 2 つの目的にアプリケーションを使用できます。

- アプリケーションのライフサイクルの管理に必要な関連アセットのコンテナとして使用できます。例えば、フォームデザイン、会社のロゴ、フォームデザインで使用するフラグメントおよびローン承認プロセスを含むローン承認アプリケーションがあります。
- 様々なアプリケーションで様々な開発者によって使用される関連のないアセットのコンテナとして使用できます。例えば、組織で使用する様々なフォームデザインとこれらのフォームデザインで使用する画像を含むプロジェクトがあります。

さらに、現在、リソースやプロセス上ではなく、アプリケーションレベルで管理を容易にするために複数の機能が提供されています。

- バージョン管理
- LiveCycle ES2 サーバーへのデプロイメント (デプロイメント環境)
- LiveCycle アーカイブ (LCA) ファイル

複数の開発者プロジェクト用のファイル管理ツール

Workbench ES2 のアプリケーションビューは、分散開発環境向けの新しいファイル管理ツールを提供します。開発者がファイルを操作するときに、ファイルをチェックアウトできるようになりました。アプリケーションアセットはまだ LiveCycle ES2 データベースの中央の場所に保存されていますが、チェックアウトされるたびに、ローカルのコピーが作成されます。

- ファイルをチェックアウトすると、他の開発者がファイルを変更できなくなります。
- ファイルのローカルのコピーで作業を行うと、ネットワーク帯域幅への依存が少なくなるため、パフォーマンスが向上します。

開発者がファイルをチェックインすると、LiveCycle ES2 サーバー上のコピーが更新され、他の開発者が使用できるようになります。

操作ウィザード

Workbench ES2 操作ウィザードを使用すれば、処理が複雑でわかりにくいタスクをより簡単に実行できます。これらのウィザードでは、以下のタスクをガイドするパネルが表示されます。

フォームデータ操作： データ事前入力、抽出、フォームのデータマージ

ドキュメントのアーカイブ（出力）： コンテンツ管理システム（CMS）への保存、データベース、プリンタ、ファイルシステムおよび電子メール用のドキュメントの PDF への変換。

ドキュメントの承認： Task Manager による新しい操作で、複数のユーザーが 1 つのドキュメントを承認できます。

ユーザータスクの設定： 最新のユーザーサービスプロパティシートの複雑さを一部軽減するガイド付きのユーザータスク設定エクスペリエンス。

新しいウィザードは、新規アセットの作成をガイドします。

- フォーム
- プロセス
- ガイド
- プロセスのスタートポイント
- データモデル
- DDX ファイル
- XDC ファイル
- ユーザーリスト

プロセスデザインの強化

Workbench ES2 では以下の強化が行われています。

プロセスのスタートポイントの視覚化

プロセス呼び出しがプロセスダイアグラムでスタートポイントとして表示されるようになりました。さらに、プロセスがデプロイされると、LiveCycle ES2 サーバー上に対応するエンドポイントが自動的に作成されます。エンドポイントを作成するために LiveCycle 管理コンソールにログインする必要がなくなりました。

強化された XPath Builder

新しい XPath Builder 機能により、XPath 式の作成がより簡単になります。

- パスの次のノードを選択する自動プロンプト。
- 自動構文チェック。
- 読みやすくするためのカラー区別機能および操作。

プロセスプロパティビューの機能強化

プロセスプロパティビュー（プロパティビューから名称変更）では、ユーザビリティを向上させるために、いくつかの強化が行われています。

- プロパティをフィルタリングして、基本プロパティのみを表示し、詳細なプロパティを表示しないようにすることができます。フィルタリングによって、最初に取り組むプロパティを決めることができます。
- 視覚表示により、操作に必要なプロパティが設定されているかどうかを簡単に表示できます。
- F1 キーを押すと表示されるヘルプがより細かく調整されます。F1 キーを押すと、操作全体のヘルプではなく、対象のプロパティグループに固有のヘルプが表示されます。

新しいパレット

新しいパレットにより、プロセスダイアグラムへの項目の追加が簡単になります。Set Value、Email With Document および Decision Point などの複数の操作を直接プロセスダイアグラムにドラッグできます。

新しいアーカイブウィザード

新しいアーカイブウィザードを使用して、プロセスで使用されるファイルを簡単に保存できます。このウィザードを使用して、印刷したり、電子メールで送信したり、コンテンツストアまたはファイルシステムに保存したりするドキュメントまたはフォームを選択できます。必要に応じて、このウィザードでドキュメントまたは PDF フォームをアーカイブする前に変換できます。

このウィザードでは、選択したオプションを実装するために、複数の操作がプロセスダイアグラムに追加されます。プロセスの各操作およびルートのプロパティは、ウィザードで選択したオプションに基づいて設定されます。このウィザードでは、プロセスを実行するために必要な変数もすべて作成されます。

ガイドとの統合

ガイドは Designer ES2 から削除されて、Workbench ES2 に統合されるようになりました。Workbench ES2 内で、Designer ES2 XDP ファイルではなく、データモデルを使用して、ガイドを構築できるようになりました。

注意: Designer ES2 で作成されたガイドもサポートされていますが、それらを Workbench ES2 にインポートして、編集することはできません。

Workbench ES2 のガイドには、次のような利点があります。

- コーディング（JavaScript など）不要の迅速なガイド開発を可能にします。
- Flex Builder により、追加のカスタマイズに対応します。
- 共通モデルを使用したモデル主導の開発を可能にします。
- レコードのガイドおよび PDF ドキュメントを作成するためのデータおよび制約モデルを提供します。
- LiveCycle ES2 プロセスに簡単に統合できます。
- ガイド作成者は、ガイドにインタラクティブまたは非インタラクティブ PDF ドキュメントを含むことができます。ユーザーは、PDF ドキュメントをプレビューし、必要に応じて、ガイドに戻り変更することができます。インタラクティブ PDF フォームを使用すると、PDF 内でデータを変更したり、ガイドと共有することができます。この場合、ガイドは XDP 形式に基づいている必要があります。
- カスタム Flex コンポーネントの詳細なプロパティを設定することで、コンポーネントをさらに柔軟に使用できます。

Document Builder

Workbench ES2 用の Document Builder を使用すれば、XML で直接操作しなくても、ドキュメントテンプレート（DDX ファイル）を作成してテストすることができます。Document Builder は Assembler で使用するよう設計されています。DDX ファイルは、他のドキュメントやアセットからドキュメントをアセンブリするために使用されます。DDX ファイルを Assembler サービスやその他の LiveCycle ES2 サービスに送信して、DDX ファイルで指定されたとおりにドキュメントを作成できます。

XDC エディタ

XDC エディタは Output ES2 で使用するように設計されています。PCL および PostScript® プリンタの場合、XDC エディタを使用して、マッピングテーブルによって入力トレイとメディアを簡単にマッピングできます。入力トレイとメディアを相互に独立して定義し、それらをマッピングすることができます。

現在、以下のラベルプリンタに対応しています。

- DPL 形式をサポートする Datamax
- IPL 形式をサポートする Intermec
- TPCL 形式をサポートする Toshiba TEC
- RFID フィールドでバイナリデータが 16 進数値としてサポートされるようになりました。Zebra RFID に 16 進数データを使用できるようになりました。

注意: RFID のサポートは zpl についてのみ有効です。

LiveCycle Designer ES2

Adobe LiveCycle Designer ES2 には以下の新機能および拡張機能があります。

Action Builder

Action Builder を使用して、フィールドの非表示や Java コーディングの必要な電子メールの送信などのアクションを実行できます。ツールメニューで Action Builder ダイアログボックスを使用して、スクリプトを書くことなく、フォームで共通インタラクティブアクションを構築できます。アクションを使用して、フォームオブジェクトやデータを表示する方法、オブジェクトやデータのフォーム入力操作に対する応答方法を制御できます。

データモデルへのデータ接続

データモデルを使用して、データ接続を作成できるようになりました。データモデルに記述されている要素と属性をフォームのフィールドにバインドできます。次にサーバー側の処理を使用して、フォームデザインをデータモデルに基づいてデータとマージできます。

リレーショナルデータ構造へのデータ接続

Designer ES2 は、リレーショナルデータモデルまたはリレーショナルデータモデルに基づく XML スキーマやデータファイルへのデータ接続をサポートするようになりました。リレーショナルデータモデル内の要素と属性の関係は、新しい参照データノードを使用して、データ表示パレットに表示されます。

データ接続の更新の警告

フォームをもう一度開くと、Designer ES2 がデータ接続のソースファイルが変更されたかどうかを判断します。変更されている場合、接続を更新するように求められます。

Workbench ES2 との統合

Designer ES2 は現在スタンドアロンで動作し、Workbench ES2 と通信して、両方のアプリケーションにまたがるワークフローを可能にしています。フォーム開発者は、フォームを Workbench ES2 内からまたは直接 Designer ES2 から開始できます。Workbench ES2 は、各オープンフォームのタブを表示します。このタブには、フォームのサムネイル画像が表示され、フォーム開発者は、フォームを編集する Designer ES2 に簡単に切り替えることができます。Designer ES2 のフォームを閉じると、Workbench ES2 のタブも閉じ、Workbench ES2 のフォームを閉じると、Designer ES2 のタブも閉じます。

新規フォームのデフォルトスクリプト言語

新規フォームのデフォルトスクリプト言語を設定できるようになりました。このタスクは、ツール/オプション/ワークスペースの「新規フォームのデフォルト言語」リストで「FormCalc」または「JavaScript」を選択して行います。

イベントの伝播

スクリプトエディタでイベントの伝播を有効にして、スクリプトをグローバル化することができます。この設定によって、フォームイベントを先行コンテナに伝播させることができます。イベントの伝播によって、フォームのスクリプト数を減らすことができます。例えば、グローバルスクリプトを作成して、無効なフィールド、サブフォーム、除外グループの外観を制御できます。

フォーム検証

フォームのプロパティダイアログボックスの新しいオプションを使用して、Adobe Acrobat® で PDF フォームのデータ検証エラーを表示する方法を制御できます。

汎用メタデータ

著作権表示の URL などのカスタムプロパティをフォームに追加できるようになりました。

キーボードショートカットの機能強化

メニューまたはダイアログボックス内のショートカット間の競合をなくすために、一部のデフォルトのキーボードショートカットが変更されました。また、より多くのコマンドでショートカットを使用できるようになりました。例えば、スクリプトエディタのコンテキスト（右クリック）メニューでキーボードショートカットを使用できます。

新しいロケール

Designer ES2 に、新しいロケールとして、カタロニア、バスクおよびタガログが追加されました。

カスタムオブジェクトライブラリの新しい挿入ポイントオブジェクト

Assembler サービスを使用してサーバー上でアセンブリされるフォームで使用できる挿入ポイントオブジェクトが追加されています。挿入ポイントオブジェクトは、フォームがアセンブリされるときにフォームに挿入されるフラグメントのプレースホルダの役割を果たすサブフォームです。

リスト入力のためのペーストオプション

Microsoft® Excel またはテキストエディタからタブ区切りフォームにデータをコピーして、ドロップダウンリストまたはリストボックスにオプションのリストを追加できます。

クイックスタートチュートリアル

クイックスタートチュートリアルが Web に移動しました。PDF ファイルをダウンロードして、チュートリアルを印刷したり、オンラインで表示したりすることができます。

JavaScript の厳格な範囲指定ルール

Designer ES2 ヘルプのスクリプトコンテンツを厳格な範囲指定に関する情報で拡張できます。LiveCycle Designer ES 8.1 には、フォームの実行時間とメモリ使用量を改善するために、厳格な範囲指定が導入されました。

ヒントおよびベストプラクティス

流動レイアウトでフォームを作成し、スクリプトをデバッグし、フォームでフラグメントを使用するための新しいヒントとベストプラクティスを使用できます。

翻訳識別子

フォームデザイン中の翻訳可能なテキスト用の XLIFF 識別子を生成するためにオプションが追加されています。このオプションを選択すると、フォームを保存するときに一意の XLIFF 識別子が作成されます。XLIFF 識別子は、XML フォーム (.xdp) 形式でフォームデザインを保存するときに XML ソースに表示されます。

LiveCycle Process Management ES2

Adobe LiveCycle Process Management ES2 は、レビューおよび承認プロセスに便利な以下の機能を提供します。一部の機能は、Assign Task および Assign Multiple Task 操作では、使用できません。

ドキュメントのレビューおよび承認

Userサービスでは、複数のユーザーが同時に、または順次行う情報のレビューをサポートします。

並行処理

Assign Multiple Tasks 操作では、タスクを複数のユーザーに同時に割り当てます。タスクでは、各ユーザーが同じ情報をレビューすることが必要とされます。例えば、製造会社の変更管理委員会で、既存の製品を改善するための提案を検討するとします。委員会のメンバーは、提案を承認するか否認するかを投票で決定します。Assign Multiple Tasks 操作により、変更提案を表示するタスクが作成されます。委員会の各メンバーは、Workspace ES2 のタスクリストでタスクを受け取り、提案の承認または否認を行います。

順次処理

Several Assign Task 操作は順次実行され、操作ごとにユーザーにタスクが割り当てられます。タスクごとに、結果が次の Assign Task 操作の入力になります。例えば、購買発注プロセスで、役員レベルの管理職が大量購入を承認するとします。役員が承認を行う前に、下位の管理職が購買発注を確認します。確認を行う各レベルの管理職を示すプロセスダイアグラムに Assign Task 操作が追加されます。

LiveCycle Workspace ES2 承認ツール

ユーザーがタスクを開くと、タスクにコメントを追加したり、他のレビュー担当者が追加したコメントを表示したりすることができます。また、他のユーザーがタスクを送信するときに選択したアクションを表示することもできます。

LiveCycle Workspace ES Mobile

Web ブラウザからアクセスできる Adobe LiveCycle Workspace ES2 タスクリストにモバイルで簡単にアクセスできるようにします。モバイルデバイスからタスクを実行できることにより、ビジネスワークフローの動きを維持します。ノートパソコンを開く場所を見つけるまで待てないことの多い、出張費、ドキュメントのドラフトおよびおおよそ他のプロセスを承認または拒絶することができます。

モバイルデバイスを使用してタスクを表示および完了できる、Apple iPhone または RIM Blackberry 用のアプリケーションをダウンロードしてインストールできます。

効率化された開発

いくつかの新機能および変更された既存の機能により、ユーザーが操作するプロセスをより簡単に開発できるようにします。

アクションプロファイル：アセット（フォームやガイドなど）をユーザーに表示する方法を指定します。使用するレンダリングプロセスと送信プロセス、およびオプションのデータ準備サービスを指定します。データ準備プロセスにより、アセットと一緒に使用するために用意されるデータを変更します。このサービスは、フォームとガイドの事前入力にも使用されます。

より簡単なレンダリングおよび送信設定：レンダリングおよび送信プロセスのほとんどの設定が自動的に実行されるようになりました。変数をレンダリングして、作業に送信するための複雑な設定を実行する必要がありません。さらに、レンダリングおよび送信オプションが変数のプロパティではなく、アクションプロファイル（フォームまたはガイドのプロパティ）に保存されます。

より少ない変数タイプ：XML およびドキュメント変数を使用して、Flex で構築されたフォーム、ガイドおよびアプリケーション用のデータを保存できるようになりました。

ツールの簡素化

- 新しいプロセスウィザードは、ユーザーが新しいユーザー中心のプロセスを作成する簡単な方法を提供します。
- アクションプロファイルを使用して、開発者は Adobe LiveCycle Forms ES2 で使用するレンダリングおよび送信サービスを定義できます。

クリックスルー電子署名

LiveCycle Workspace ES2 ユーザーは、タスクの完了時に情報の有効性を確認して、電子署名を提供するように求められる場合があります。ユーザーが有効性を確認したかどうかを調べるために必要な情報はすべて、プロセスデータとして保存されます。

電子メールベースの承認プロセス

ユーザーは新しいタスクで受け取る電子メール通知に回答することによって、タスクを完了できます。開発者は、リンクの形で電子メールメッセージにユーザーによるアクションを含めることができます。ユーザーは電子メールメッセージのアクションをクリックするか、返信メッセージの最初の行となるアクションで回答します。

完了ポリシー

生成されたタスクの一部が完了していなくても、Assign Multiple Tasks 操作を完了することができます。この機能は、ある案件について、必ずしもすべての関係者からの返答がなくても、決定を下すときに便利です。例えば、ある提案の承認が、委員会メンバーの多数決で決まるとします。Approve アクションを選択すると、50 %以上のタスクが完了した時点で、Assign Multiple Tasks 操作を完了できます。

コレクションデータおよびXPath 機能

Assign Multiple Tasks 操作のタスクごとに送信される情報は、Task Result Collection という名前のコレクション変数に保存されます。XPath 機能を使用して、この結果を評価することができます。例えば、特定のアクションを選択したユーザーの人数やアクションを送信したユーザーのパーセンテージを調べることができます。これらの機能は、連続して行われるドキュメント確認の結果を評価するときに便利です。

複数のユーザータスク

プロセス開発者がユーザーまたはグループのリストに基づいて並行タスク割り当てを構築できます。User サービスは、複数のユーザーに同時にタスクを割り当てるための新しい Assign Multiple Tasks 操作を提供します。

この操作は、複数のユーザーが類似の情報を提供する必要があるときに便利です。例えば、各会計四半期末に、プロセスにより組織の各地域の営業グループの副社長にタスクが割り当てられるとします。タスクを完了するには、各副社長が四半期ごとの営業報告書を添付して、タスクを送信します。プロセスにより、タスク結果のコレクションから各添付ファイルが取得され、営業の上級副社長に送信されます。

この操作は、複数のユーザーが同じ情報を確認して承認する必要があるとき（ドキュメントの確認と承認プロセス）にも便利です。

ユーザーアクション

ユーザーアクションは、タスクを完了するときにユーザーがクリックできるオプションです。開発者は、ユーザーに表示されるテキストを指定します。また、開発者は、タスクを完了するためにユーザーアクションが選択された後に続いて実行されるプロセス内の操作を指定します。

ユーザーリストオブジェクト

ユーザーリストオブジェクトを使用して、プロセス開発者が再利用可能なユーザーのリストを簡単に作成して、複数のプロセスで参照できます。

LiveCycle Mosaic ES2

LiveCycle Mosaic ES2 を使用すると、開発者は柔軟性、使いやすさ、パフォーマンスをもたらす複合リッチインターネットアプリケーション (RIA) を構築できます。Mosaic ES2 を使用して作成した複合アプリケーションは、ユーザーのロールや責務に合わせて調整したコンテキストで複数のデータソースのリアルタイムのビューを提供します。

Mosaic ES2 には、次の主な機能が用意されています。

- 既存のアプリケーションからアクティビティ中心の複合ビューの作成。
- 直観的でカスタマイズ可能なビューの操作。
- アプリケーション開発の迅速化。
- コアビジネスシステムの統合の効率化。

LiveCycle Forms ES2

Adobe LiveCycle Forms ES2 には、次の新機能が用意されています。

- フラグメントまたは他の XDP ファイルから動的にアセンブルされる XDP フォームのレンダリングサポート。
- 新しいガイドのサポート：
 - ガイドは、XDP フォームの代わりにデータモデルを使用します。
 - 関連 XDP を開発する必要のないガイド付きデータ取得エクスペリエンスを作成します。
 - コーディングなしの迅速なガイド開発を可能にします。
 - 共通モデルを使用したモデル主導の開発を可能にします。
 - レコードのガイドおよび PDF ドキュメントを作成するためのデータおよび制約モデルが追加されています。
- LiveCycle ES2 プロセスへの簡単な統合。
- HTML フォームのアクセシビリティのサポートの強化。WCAG AA 準拠のアクセス可能な XHTML フォームを生成します。
- レンダリングされた HTML へのカスタム CSS ファイルの組み込みが可能。カスタム CSS ファイルを使用すると、生成されるドキュメントの外観を、組織で設定されている標準に準拠するように変更できます。
- 別の HTML ページに表示されるレンダリングされた HTML フォームのタブサポートの強化。
- API とキャッシュをクリアするサービス、およびキャッシュディレクトリを指定する機能の追加。
- LiveCycle ES2 リポジトリのフォームを参照するように拡張された IVS の形成。

LiveCycle Business Activity Monitoring ES2

Adobe LiveCycle Business Activity Monitoring ES2 では以下の機能が強化されています。

- Business Activity Monitoring ES2 のすべての部分に対するユーザーインターフェイスの更新。
- 統合されたユーザー同期。
- Flex で構築されたカスタムアプリケーションに対するアクセス、監視および統計のための Flex SDK。
- Flex SDK による、Internet Explorer、Safari および Firefox におけるチャート作成のサポート。
- ビジネスデータおよびプロセスメトリックを含むダッシュボードを作成するウィザード。
- プロセスダイアグラム内に、データを監視したいプロセス内の特定の時点に挿入するサービスを作成できるウィザード。
- Flex ユーザーインターフェイスでチャートを統合する Flex API。

LiveCycle Output ES2

Adobe LiveCycle Output ES2 では以下の機能が強化されています。

- ラベルプリンタの新規サポート：
 - DPL 形式をサポートする Datamax
 - IPL 形式をサポートする Intermec
 - TPCL 形式をサポートする Toshiba TEC
- フラグメントまたは他の XDP ファイルから動的にアセンブルされる XDP フォームのレンダリングサポート。
- 新しい USPS インテリジェントメールバーコードのサポート。
- XDC エディタの用紙トレイと PCL メディアマッピングの改善。
- Zebra RFID 用の 16 進数データの使用。
- Zebra での XDC 以外のフォントのサポート (Zebra フォントのラスタライズ)。
- API とキャッシュをクリアするサービス、およびキャッシュディレクトリを指定する機能の追加。
- LiveCycle ES2 リポジトリのフォームを参照するように拡張された Output IVS およびラベルプリンタの新しい形式のサポート。

Central Migration Bridge サービス

このサービスによって、Adobe Central Pro Output サーバーからのアセットを LiveCycle ES2 コンテキストで使用できます。Central Pro 5.7 を LiveCycle ES2 と同じサーバーにインストールしておく必要があります。Central Migration Bridge は既存の Central ユーザーに提供されます。

LiveCycle Data Services ES2

Adobe Data Services ES2 は、Flex および Adobe AIR アプリケーションのパフォーマンスと拡張性を改善する多数の主要な拡張機能を提供します。

- Edge Server：DMZ の RTMP と NIO をサポートします。
- メッセージの信頼性：Flash Player からサーバー、およびサーバーから Flash Player への信頼できる通信を可能にします。
- メッセージスロットル：Adobe Flash Media Server が映像や音声をストリーミングする機能に似たアダプティブデータスロットルのサポート。
- 生産性の向上：追加設定不要のモデルベースのデータ永続性サポート、Adobe アプリケーションモデリングテクノロジー、およびユーザーインターフェイスオーサリングの機能強化。
- パフォーマンスの向上：Adobe AIR で使用する場合のオフラインの永続化。

LiveCycle PDF Generator ES2

Adobe LiveCycle PDF Generator ES2 は、以下の機能を使用した、より迅速で信頼できる変換を提供します。

- Microsoft Word、Microsoft PowerPoint、および OpenOffice ファイル形式のマルチスレッド変換。
- 変換で問題が起きた場合のフォールバックオプション。
- HTML 変換により、元の HTML とほぼ同じ外観の PDF ファイルを作成します。PDF Generator ES2 は、HTML から PDF への変換によって生成された PDF の外観を設定するためのオプションも提供します。
- 作成する PDF ファイルのサイズを最適化できます。

PDF Generator ES2 では、以下のファイル形式を PDF に変換できるようになりました。

- SWF ファイルや FLV ファイルなどのビデオ形式（Windows のみ）
- WordPerfect X4（英語版のみ）
- AutoCAD 2009（英語版のみ）
- Microsoft Office XPS ファイル

さらに、PDF ファイルを以下のファイル形式に変換できるようになりました。

- CSS 1.0 を使用した HTML 4.01
- DeviceRGB カラースペースのみを使用する PDF/A-1a
- DeviceRGB カラースペースのみを使用する PDF/A-1b
- DeviceRGB カラースペースのみを使用する PDF/E-1
- PDF Generator ES2 は、ネイティブアプリケーションとアカウント情報が正しく設定されているかどうかを確認できる System Readiness Tool を提供します。
- 非管理ユーザーが LiveCycle ES2 Web ページを通して、変換ジョブを送信できます。

PDF Generator ES2 の詳細については、「[LiveCycle ES2 Services](#)」を参照してください。

Distiller サービス

PDF Generator ES2 では、Distiller® サービスの PDFG ネットワークプリンタが要求者に電子メールを送信して、LiveCycle ES2 プロセスを開始するように機能強化されています。

LiveCycle PDF Generator 3D ES2

Adobe LiveCycle PDF Generator 3D ES2 には、製品ライフサイクル管理 (PLM) ワークフローに適合するための新しい機能があります。

- 既存の 3D CAD ファイルから製品アセンブリリストを作成します。
- 製品アセンブリから 3D PDF ドキュメントを作成できます。この場合、製品アセンブリとは、3D パーツと関連コンテンツの階層リストのことです。製品アセンブリでキャッシュされたジオメトリまたは別のパーツファイルにあるジオメトリを指定できます。パーツファイルは、製品ライフサイクルリポジトリや IBM® Content Manager に保存できます。
- PLM またはその他のリポジトリを操作する 3D 変換エンジンに対するカスタム拡張機能のサポートが強化されています。このリリースには、PLM またはリポジトリを操作する LiveCycle ES2 コネクタの開発方法を示すサンプルも含まれています。

PDF Generator 3D ES2 には、以下の新しいファイル形式のサポートが追加されています。

- Catia V5 R19
- NX 6
- Inventor 2009
- One Space Designer 2008
- Parasolid 19
- SolidWorks 2009
- I-Deas NX 6
- JT 9.0 および JT 9.1
- SolidEdge ST

Generate 3D PDF サービスでは、3D PDF を以下の追加のファイル形式にエクスポートできるようになりました。

- PDF
- IGES
- Parasolid
- STEP
- STL
- Universal 3D
- VRML
- PDF/E

さらに、3D CAD ファイルを次の 2D 形式に変換できます。

- DXF
- EMF

また、2D CAD ファイルは、次の形式に変換できます。

- PostScript
- EMF

Generate 3D PDF サービスでは、監視フォルダ経由でドキュメントアセンブリを送信できます。

Generate 3D PDF サービスで 3D PDF への変換時に 3D コンテンツを置く 3D 注釈を指定できます。従来は、3D PDF 変換時に 3D コンテンツを受け取ることができるのは、1 つの注釈だけでした。

以下のパフォーマンスが最適化されています。

- マルチスレッド変換
- Acrobat Pro Extended でサポートされるすべての範囲の 3D 変換のサポート

製品ライフサイクル管理サービス

LiveCycle Connector for PLM (LCCPLM) サービスは、製品ライフサイクル管理 (PLM) システムに保存されるドキュメントと LiveCycle ES2 サービス間のブリッジを提供します。このブリッジによって、PLM システムに保存される技術データ (ドキュメント、画像、2D 図面および 3D デザイン) 上での視覚化と共同作業を簡単にし、最適化する LiveCycle ES2 プロセスを作成できます。

LiveCycle ES2 Connectors for ECM

Adobe LiveCycle ES2 Connectors for ECM は、以下のコンテンツリポジトリコネクタサービスで拡張された操作を提供します。

Content Repository Connector for EMC Documentum サービス

- リポジトリにフォルダを作成するときに種類と属性を指定する。
- 指定されたドキュメントまたはフォルダをリポジトリから削除する。
- DQL クエリーを実行する。
- Documentum リポジトリで指定されたフォームデータオブジェクトに対して、LiveCycle ES2 リポジトリ内のフォームテンプレートの場所を取得する。
- LiveCycle ES2 リポジトリ内のオブジェクト、ファイル、またはデータおよび Documentum リポジトリ内のアセット間にリンクを確立する。
- Documentum リポジトリ内にアセットリンクオブジェクトを保存するためのパスのデフォルト部分を設定する。

Content Repository Connector for IBM Content Manager サービス

- IBM Content Manager リポジトリ内にフォルダを作成する。
- IBM Content Manager リポジトリからアイテムを削除する。
- IBM Content Manager リポジトリで指定されたフォームデータオブジェクトに対して、LiveCycle ES2 リポジトリ内のフォームテンプレートの場所を取得する。
- LiveCycle ES2 リポジトリ内のオブジェクト、ファイル、またはデータおよび IBM Content Manager リポジトリ内のアセット間にリンクを確立する。

Content Repository Connector for IBM FileNet サービス

- 指定されたドキュメントまたはフォルダをリポジトリから削除する。
- IBM FileNet リポジトリで指定されたフォームデータオブジェクトに対して、LiveCycle ES2 リポジトリ内のフォームテンプレートの場所を取得する。
- LiveCycle ES2 リポジトリ内のオブジェクト、ファイル、またはデータおよび IBM FileNet リポジトリ内のアセット間にリンクを確立する。
- IBM FileNet リポジトリ内にアセットリンクオブジェクトを保存するためのパスのデフォルト部分を設定する。

Connector for Microsoft SharePoint

- LiveCycle ES2 サーバーのサービスを使用する SharePoint ワークフローを作成し、開始できる。
- ドキュメントを Adobe PDF に変換し、使用権限を適用したり、Adobe Reader に機能を追加できる。

LiveCycle Content Services ES2

Adobe LiveCycle Content Services ES2 には次の機能が含まれています。

- Alfresco 3.2 リリースからの新機能
- Adobe LiveCycle ContentSpace ES2 のデータ取得機能
- レビューおよびレビューチームを管理する Flex ユーザーインターフェイス
- レビューを作成し、権限で保護されたドキュメントを管理する新しいスペーステンプレート
- LiveCycle Workbench ES2 からのステージ化されたレビューのオーサリング
- Content Services ES2 を使用して管理されるレビューに対するゲストおよびリモートユーザーのアクセス
- すべてのレビューコメントおよびリビジョンの追跡
- レビュータスク用のカスタムユーザーインターフェイス

Document Management サービス

Workbench ES2 の Document Management サービスは、以下のタスクを実行するための新しい操作を追加します。

- 指定されたスペースに存在するコンテンツアイテムまたはスペースのリストを取得する。
- 元のファイルおよびフォルダの階層を維持して ZIP ファイルまたは ACP ファイルの内容をコンテンツスペースに保存する。
- 特定のコンテンツとそれに関連するメタデータを取得する。
- 特定のメタデータまたは検索インデックスをコンテンツから削除する。
- 特定のコンテンツのアクセス権限を読み取る。
- 特定のコンテンツのアクセス権限を割り当てる。

ContentSpace ES2 の新機能

Adobe LiveCycle Content Services ES2 を使用してレビューを行うことができるようになりました。レビュースペーステンプレートでは、保存されているコンテンツから PDF フォームを生成します。レビューの所有者は、チームおよびレビューのタイムフレームを割り当てます。レビュー担当者は、レビュードキュメントでのマークアップとコラボレーションのためのコメント用クライアントとして Adobe Reader を使用します。コメントは、すべてのレビュー担当者間で公式に共有されます。または、レビュー担当者のニーズに基づいてレビューの所有者との間で非公式に共有されます。臨時レビューと管理レビューの 2 種類のレビューを実行できます。オンデマンドレビューでは、スペース内の該当するドキュメントが単一ステージでのレビュー用に送信され、レビューのデッドラインおよび参加者がレビュー開始者によって決定されます。構造化レビューには、スペーステンプレートまたはワークスペースのプロパティを作成する管理者によって決定された、プリセットのレビュープロパティが含まれ、複数ステージが含まれることがあります。構造化レビューは、ユーザーがドキュメントをレビュースペースに追加するたびに自動的に開始されます。

LiveCycle Rights Management ES2

Adobe LiveCycle Rights Management ES2 には以下の機能が含まれています。

ポリシーの作成および編集用のユーザーインターフェイスの強化

ポリシーの作成および編集用のユーザーインターフェイスが機能強化されました。

動的な透かし

3D ドキュメントの動的な透かしを表示する機能が強化されました。さらに、動的な透かしでドキュメントに適用されるポリシーの名前を表示できるようになりました。

オフライン同期

Rights Management ES2 を使用すると、ユーザーが Rights Management ES2 サーバーに接続していなくても、保護されたドキュメントを開いて使用できます。ユーザーのクライアントアプリケーションでは、ドキュメントをオフラインで使用できるように、常にサーバーと同期させて有効な状態を維持する必要があります。デフォルトでは、4 時間ごとに自動的に同期が行われます。ユーザーが Rights Management ES2 サーバーに接続したときに必要に応じて同期させることもできます。ユーザーがオフラインのときにドキュメントのオフライン期間が終了した場合、ユーザーは、クライアントアプリケーションがサーバーと同期できるようにサーバーに再接続する必要があります。Rights Management ES2 設定ファイルでは、バックグラウンドでの自動同期のデフォルトの頻度を指定できます。この設定は、クライアントに独自のタイムアウト値が明示的に設定されていない限り、クライアントアプリケーションのデフォルトのタイムアウト期間になります。

LiveCycle Digital Signatures ES2

Adobe LiveCycle Digital Signatures ES2 には次の機能が含まれています。

ドキュメントの検証

Signature サービスで PDF ドキュメントの署名を検証し、PDF ドキュメントの全体的な有効性に関する情報を返すことができるようになりました。PDF ドキュメントの有効性には、署名されたコンテンツおよび署名者の ID および信頼設定が含まれています。ドキュメントの有効性によって、Modification Detection and Prevention (MDP) および Modification Detection and Protection Plus (MDP+) ルールに従うかどうかが決まります。

HSM 管理

LiveCycle 管理コンソールの新しいウィザードを使用して、Hardware Security Module (HSM) 秘密鍵証明書のエイリアスを簡単に作成できるようになりました。秘密鍵証明書のエイリアスを使用して、HSM のステータスを表示できるようになりました。HSM は Java 6 プラットフォームでサポートされています。

Digital Signatures ES2 には、強化された Javadoc とコメント機能も含まれています。

共通サービス

共通サービスには、以下の拡張機能が含まれています。

Assembler サービス

- 独立したユーザーインターフェイスを含む PDF ポートフォリオの作成に対応します。このインターフェイスは、PDF ポートフォリオレイアウトまたは PDF ポートフォリオナビゲータと呼ばれています。PDF ポートフォリオは、カスタマイズ可能なユーザーインターフェイス（ナビゲータ）、フォルダ、およびようこそページを追加することによって、PDF パッケージの機能を拡張します。このインターフェイスは、ローカライズされたテキスト文字列、カスタムカラースキーマ、およびグラフィックリソースを利用して、ユーザーエクスペリエンスを拡張できます。PDF ポートフォリオには、ポートフォリオ内のファイルを整理するためのフォルダも含まれています。
- フラグメントまたは他の XDP ファイルから XDP ドキュメントを動的にアセンブリします。XDP ドキュメントに含まれるフラグメントに影響する要因は次のとおりです。
 - プロセス変数
 - 入力マップ変数
 - データの連結
- Workbench ES2 用の Document Builder を使用すれば、XML で直接操作しなくても、ドキュメントテンプレート（DDX ファイル）を作成してテストすることができます。DDX ファイルを Assembler サービスに送信して、DDX ファイルで指定されたとおりにドキュメントを作成できます。
- 変換後のドキュメントで使用される外部 URL をドキュメントオブジェクトまたは文字列に解決することで、外部 URL のサポートを拡張します。従来、このような URL はドキュメントオブジェクトに解決される必要がありました。この機能は、PDF ポートフォリオの作成に対応しています。
- 次の種類の外部 URL のサポートを追加します。
 - 一連の関連プロセスとアセットを含む LiveCycle ES2 アプリケーションを指定するアプリケーション URL
 - コンテンツスペース URL
 - 入力マップ URL
 - プロセス URL
 - FTP URL

LiveCycle Launchpad ES2

Adobe LiveCycle Launchpad ES2 は、デスクトップから LiveCycle ES2 サーバー上のサービスにアクセスできる新しい Adobe AIR® クライアントアプリケーションです。Launchpad ES2 を使用して、ファイルを PDF または 3D PDF ドキュメントに変換したり、PDF ドキュメントを他のファイル形式にエクスポートしたり、ドキュメントを権限保護したり、PDF パッケージを作成したりすることができます。

インストール

LiveCycle ES2 では、さらに機能強化された自動インストールと、プラットフォーム、アプリケーションおよびデータベースのための更新されたサポートマトリックスが導入されています。

インストール全般

LiveCycle ES2 のインストールには、以下の全般的な機能強化が図られています。

- LiveCycle ES2 インストーラに F1 ヘルプが含まれるようになりました。
- LiveCycle ES2 インストーラでは、インストールエラーを減らすために LiveCycle ES2 のインストール前に多数のシステムチェックが行われるようになりました。
- 強固な 64 ビット OS サポート。
- WebSphere 7、Microsoft Windows® Vista™ および Active Directory 2008 などの新しいプラットフォームのサポート。
- コマンドラインからの LiveCycle ES2 のインストールの機能強化。
- 新しい LiveCycle ES2 のトラブルシューティングドキュメントの提供。
- 新しいグローバルドキュメントストレージオプションで LiveCycle ES2 データベース内に永続的なドキュメントストレージを作成できるようになり、データベースを簡単にバックアップできるようになりました。
- LiveCycle ES2 からの JMS の削除および手動インストールを簡単にするためのジョブマネージャの交換。

自動インストール

LiveCycle ES2 の自動インストールには、以下の機能強化が図られています。

- 64 ビット Windows オペレーティングシステムの自動インストールのサポート。
- 既存の MS SQL、Oracle または MySQL データベースの自動インストールのサポート。
- JDK が自動インストールにバンドルされるようになりました。必要なのは、Windows オペレーティングシステムのみです。
- 自動高速モードに、組込み JDK および環境変数の自動設定などの機能強化を含む、自動インストールのフル機能が追加されました。
- 部分的な自動オプションにより、ユーザーが独自に事前設定したデータベースを LiveCycle ES2 の自動インストールで使用できます。
- 機能強化された PDF Generator ES2、LiveCycle ES2 ECM コネクタ、LiveCycle Configuration Manager を使用した Content Services ES2 設定。
- LiveCycle Configuration Manager に SSL 証明書を自動的に生成するオプションが追加されました。
- スタンドアロンの JBoss、WebLogic および WebSphere インストールでの Business Activity Monitoring ES2 自動インストールの使用をサポートするスタンドアロン Business Activity Monitoring ES2 オプション。

LiveCycle ES2 へのアップグレード

LiveCycle ES2 のアップグレードには、以下の全般的な機能強化が図られています。

- 簡素化および効率化された LiveCycle ES 8.x から LiveCycle ES2 へのアップグレード
- LiveCycle 7.x 互換性レイヤーの継続サポート
- Workbench ES2 で LiveCycle 7.x QPAC に基づくプロセスのアップグレードに使用されるプロセスアップグレードツール

インストール検証サンプル

LiveCycle ES2 のインストールには、インストールの検証に使用できるいくつかのインストール検証サンプル (IVS) が含まれています。これらのサンプルを使用して、LiveCycle ES2 サービスに送信するフォーム、データおよび設定ファイルをテストすることができます。

LiveCycle ES2 では、次のような点でサンプルの改善が図られました。

- サンプルのインストールと使い方に関するドキュメントを提供します。サンプルには充実したヘルプが組み込まれています。
- サンプルの更新によって、対応するサービスに追加された一部の機能が反映されます。

ハードウェアおよびソフトウェアの要件

自動インストール用の 32 ビットの実稼働プラットフォームがありますが、LiveCycle ES2 製品スイート全体を実行することはできません。LiveCycle ES2 の自動インストールには、以下の機能強化が図られています。

- 64 ビット Windows オペレーティングシステムの自動インストールのサポート。
- 既存の MS SQL、Oracle または MySQL データベースの自動インストールのサポート。
- JDK が自動インストールにバンドルされるようになりました。必要なのは、Windows オペレーティングシステムのみです。
- 既存の MS SQL、Oracle または MySQL データベースの自動インストールのサポート。

LiveCycle ES2 のハードウェアおよびソフトウェア要件の詳細なリストについては、『[LiveCycle ES2 のインストールの準備 \(シングルサーバー\)](#)』のシステム要件を参照してください。

LiveCycle ES2 SDK

API 拡張機能

LiveCycle ES2 SDK には以下の API 拡張機能が含まれています。

Document Management Service API : プログラムで LiveCycle Content Services ES2 を操作するために使用できる公開 API を公開します。

Forms Service API : ドキュメントのインスタンスを使用して、フォームデザインを渡すことができます。

Output Service API : ドキュメントのインスタンスを使用して、フォームデザインを渡すことができます。

Rights Management Service API : ポリシー保護された PDF ドキュメントを検査することができます。

Signature Service API : PDF ドキュメント内のすべての署名を検証できます。

Workspace API (新機能) : 3 つの SWC ファイル (foundation-runtime.swc、procmgmt-api.swc、procmgmt-ui.swc) を含みます。新しい機能と更新をピックアップするために、カスタマイズは新しい Workspace API によって再コンパイルされます。以前に作成された EAR ファイルは、LiveCycle ES2 とバイナリ互換です。

LiveCycle ES2 への保護されたドキュメントの受け渡し

LiveCycle ES2 では、Flex で記述されたクライアントアプリケーションの保護されたドキュメントを LiveCycle ES2 に渡すことができます。保護されたドキュメントを渡すことにより、ビジネス情報および機密ドキュメントが保護されます。保護されたドキュメントが Flex で記述されたクライアントアプリケーションからのみアップロードされるように LiveCycle ES2 を設定できます。保護されたドキュメントを渡すときは、シングルサインオンを使用して、ドキュメントアップロードのアプリケーションユーザーロールを持つ LiveCycle ES2 ユーザーを指定します。

REST 要求のサポート

LiveCycle Workbench ES2 で作成したプロセスを設定し、Representational State Transfer (REST) 要求で呼び出すことができます。REST 要求は HTML ページから送信されます。つまり、REST 要求を使用して、Web ページから直接 LiveCycle ES2 プロセスを呼び出すことができます。例えば、Web ページの新しいインスタンスを開くことができます。次に、LiveCycle ES2 プロセスを呼び出して、HTTP POST 要求で送信されたデータを含む、レンダリングされた PDF ドキュメントを読み込むことができます。

HTML クライアントは 2 種類あります。1 つ目は、JavaScript で記述されている AJAX クライアントです。2 つ目は、「送信」ボタンを含む HTML フォームです。HTML ベースのクライアントアプリケーションは、使用可能な唯一の REST クライアントというわけではありません。REST 呼び出しを使用すると、HTTP 要求をサポートする任意のクライアントアプリケーションから LiveCycle ES2 を呼び出すことができます。例えば、PDF フォームから REST 呼び出しを使用して LiveCycle ES2 を呼び出すことができます。

サンプル

LiveCycle ES2 デベロッパーセンターからのダウンロード

次のサンプルは、LiveCycle ES2 デベロッパーセンターで入手できます。

- Self-paced Learning Resources for Designers and Developers - 段階的なチュートリアル、ビデオ、スポットライトまたはテストドライブを使用して、LiveCycle ES2 ツールセットについて学習できます。
- LiveCycle ES2 製品サンプル - LiveCycle ES2 ソリューションモジュールおよびそれらを連携させる方法について学習するための、完全にビルドおよびテストされた LiveCycle ES2 のサンプルです。Web で入手できる製品サンプルは、完全にビルドおよびテストされた LiveCycle ES2 のサンプルです。このサンプルは、LiveCycle ES2 と共にインストールできます。サンプルがダウンロードされると、インストーラはデータベースにデータを移植してドメインの設定を完了します。LiveCycle ES2 のサンプルは、Simple Mortgage Loan - Flex および End-to-End Mortgage Application です。
- LiveCycle ES2 サービスのサンプル - 個々の LiveCycle ES2 サービスの機能について学習できます。
- LiveCycle ES2 SDK のクイックスタートおよびサンプル - クイックスタートでは、LiveCycle ES2 の操作 (PDF ドキュメントの暗号化や電子署名など) を実行するためのタスクベースの詳細な手順を紹介します。クイックスタートをコピーして、Java、Flex および Web サービスプロジェクトに貼り付けることができます。
- LiveCycle ES2 SDK のサンプル - LiveCycle ES2 プログラマ向けに設計されています。LiveCycle ES2 SDK を使用してアプリケーションのニーズを解決する方法について詳しく紹介します。

これらのサンプルを独自の作業に適用することができます。最新のサンプルを入手するには、[Adobe LiveCycle ES2 デベロッパーセンター](#)を参照してください。

新機能に関連する製品

LiveCycle Service Discovery

LiveCycle Service Discovery Plug-in (Flash Builder 4 版) を使用して、LiveCycle ES2 サーバーに接続し、利用可能なサービスを検索して、必要なパラメータを提供できます。リモートエンドポイントを介して、LiveCycle ES2 サービスを呼び出す Flex および Air アプリケーションを素早く構築できます。

Flash Builder 4をインストールするときに、LiveCycle Service Discovery Plug-in は自動的にインストールされません。このプラグインは、Flash Builder 4 DVDの Extras フォルダにあります。LiveCycle Service Discovery Plug-inの使用方法については、Adobe Webサイトの [LiveCycle Service Discovery](#) ページを参照してください。Web サイトの情報は、HTML で入手できます。または、PDF ファイルとしてダウンロードすることもできます。

製品のドキュメントおよびヘルプの作成時に記載できなかった重要な情報については、「[LiveCycle Service Discovery Plug-in Release Notes](#)」を参照してください。